

～ 「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川をつくる条例」制定へ決意な一歩 ～

理事長 奥山葉月

「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川をつくる条例」制定への取り組みは「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会」として平成26年1月現在、10団体が加盟して活動しています。

平成25年12月10日、第4回たちかわ市議会定例会厚生産業員会にて、「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川をつくる条例」に関する請願が審議されました。全会派の皆さんから紹介議員をお願いすることができ、また、30名近い関係者が傍聴するなか、めでたく可決されました。また、その後、12月20日に行われた本会議においても可決され、おおきな一歩を踏み出すことができました。

12月10日に厚生産業員会の請願の際、「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会」会長と副会長から趣旨説明を行いました。その文章は私たちの熱い思いを表している、とても素晴らしいものなので、皆様にお伝えできたらと思い、そのときの原稿をお借りしました。

今年6月、障害者・家族の長年の願いであった障害者差別解消法が制定されました。そしてこの12月4日、国会で障害者権利条約の批准が承認されました。これは長い間、差別や偏見、嘲笑の対象であった障害者にとって大きな喜びですが、関係機関・国民のご尽力・ご理解があつてのことであり、感謝申し上げます。

私たち、障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会は、障害者に対する理解を進め、差別や偏見がなく誰もが暮らしやすい立川をつくりたいという思いで、平成21年、5つの障害当事者団体と事業所で設立しました。

現在会は、7つの障害当事者団体と3つの事業所で構成されていますが、これまで、障害のある人もない人も暮らしやすい千葉県作り条例の座長だった、毎日新聞論説委員の野沢和弘さんの学習会や教育に関するワークショップの開催等を行ってきました。また、包括支援センターが設置されている6つの地区ごとに地域懇談会を開催し、小さい地域で障害を理解してもらう活動や孤立している障害者と繋がる活動も行っています。

今回、請願と一緒に差別と思われる事例を添付致しましたが、障害当事者、家族は、病院の診察を断られたり、アパート等の契約を断られたり、嫌な顔されたり、バカにされるようなことを言われたり、人権

侵害と慰まれることを多く経験してきました。

療育も教育も生活も仕事も、障害者の多くは、「健常者」と区別したところにいました。障害者同士でも、知らないがゆえに無理解や差別をしてしまうことがあり、知らないことが差別や偏見の大きな原因となっています。

そのような現実、今まで、当事者本人や家族が孤軍奮闘したり、会や団体が、障害を理解してもらう活動を行ってきましたが、障害当事者団体、事業所同士で学習会や話し合いを行うなかで、障害の理解を進め、誰もが暮らしやすい地域、心のバリアフリーを目指すために障がいのある人もない人も暮らしやすい条例の制定へ願いを強くもつに至りました。

立川では10年間にわたる当事者や当事者団体・支援者による駅のエレベータ設置運動がありました。10年間もかかったのは、障害者だけでなく誰もが使えるエレベーターの設置を望んだからだと聞いています。今では駅のエレベータは歩くのが不自由な高齢者やベビーカーを押すお母さんには必要なものになっています。

ハードの面だけでなく、障害者が普通に受け入れられるお店は認知症の高齢者も利用しやすいでしょう。車イスの人が当たり前バスに乗車できるなら、高齢になって車イスユーザーになられた方も、もっと遠慮なく利用できるようになります。小さいときから障害のある人が身近にいたら、繋がり合うことや支え合うことを自然と身につけることができるかもしれません。

障害者が暮らしやすい社会はだれもが暮らしやすい社会です。そして、差別解消法の目的である、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会こそ本来のあり方なのではないでしょうか。

今年の6月に差別解消法が制定されたことは、大変嬉しいことです。しかし、どれだけの人々がその法律の意義を理解し実際の生活の中で常識のこととして受け止めているのでしょうか。この重要な法律を生きたものにするためには、地域社会での意識を高めることが不可欠です。地域のさまざまな立場の人々とともに暮らしやすいまちづくりについて話し合いを重ね、その仕組みをつくっていく過程の中で、「障害」というものと「障害者」についての理解が深まると思われます。そうやって初めて差別解消法が意味を持つことになります。そして、この立川が障害者だけではなく、だれもが暮らしやすいまちになるのだと思います。

差別解消法は議員立法により全会派の賛成で制定され、3年後の28年度から施行されます。合理的配慮のことなど専門家の議論が必要なことも多くなるという話を聞いております。私たちの望む条例も、国の動向をみながら当事者はじめ多くの方々に関わっていただきながら2年、3年と議論を重ね、実効性のあるものがつくられることを希望します。

最後に当事者の方々から嬉しかった事例として寄せていただいた、心温まるエピソードをひとつご紹介いたします。

・ダウン症の息子が行方不明になってしまい近所を探し回っていると、通りかかった奥様が一緒に探して見つけてくれた。その間30分くらいだったが、とても嬉しく助かった。

・地域の方に恵まれ、通りすがりに会ったりすると「がんばれ、ぼうず!」と親しみを感ずる声かけをしてくれる。

今は、嫌な思いをした事例の数にはとうてい及びませんが、近い将来、このような嬉しかった事例が溢れるようなまちに、福祉の充実をうたい、市民一人ひとりを大切にする施策を進めているこの立川で実現することを心より願っています。

福祉ホットライン《障害者地域自立生活支援センター事業》事業報告

平成25年度 立川市障害者週間イベント 報告

立川市では12月3日(火)～12月9日(月)の障害者週間の期間中に、障害のある人の福祉に関する情報発信を目的としたイベントを開催しました。福祉ホットラインでは実行委員会の事務局長を務めました。

今年度は「小さな手と手 つないでつくる 私たちの未来」をテーマとし、旧立川市役所跡地を活用して設立された立川市子ども未来センターを会場に、展示会を行いました。また、新たな試みとして期間中に多摩信用金庫の主催で開催された「かぞく市」にも出展し、幅広い市民のみなさんに障害者週間のことを知って頂く機会を設けました。主な企画内容についてご報告します。

○ 展示・体験・相談会 12月3日(火)～9日(月)

子ども未来センター 地下ギャラリー・第1アトリエにて

・市内の小学4年生から募集した絵画の展示

テーマ：障害のある人となない人がともに安心して暮らせる私たちのまち立川

- ・福祉機器の展示・体験 (リフト・階段昇降機・コミュニケーション機器など)
- ・市内福祉団体のパネル展示、活動DVDの上映
- ・車いす体験
- ・幻聴幻覚体験 (バーチャルハルシネーション)
- ・福祉ホットラインのピアカウンセラーによる相談



設置型リフト「つるべ」の体験

○ 「かぞく市」多摩の健康・介護・医療展への出展 12月6日(金)～7日(土)

昭和記念公園 花みどり文化センターにて (主催：多摩信用金庫)

- ・立川市福祉施設交流連絡会の活動紹介
- ・市内福祉団体の活動DVDの上映
- ・福祉機器購入時に利用できる障害福祉サービスの情報提供



「かぞく市」への出展の様子

○ 映画会「最強のふたり」 12月8日(日)

女性総合センター・アイム ホールにて (共催：立川市人権学習事業実行委員会)

- ・頸髄損傷の富豪と、彼の介護者として雇われた黒人青年との関係を描いた、実話を基にしたヒューマン・コメディ映画の上映

○ 障害年金相談 12月7日(土)～8日(日)

柴崎学習館 第1・2教室にて

- ・障害年金を専門にサポートする多摩地域の社会保険労務士による無料相談会

イベント全体を通して891名の方にご来場頂きました。来年度以降も、より多くの方に障害のある人の生活や思いについて知って頂けるような場を作り上げていきます。

(廣瀬 麻美)

◆ ネットワークの取り組み

立川市役所には知的障害の方が働く喫茶店「c a f éはあもにい♪」があります。このお店は、立川市社会福祉協議会(以下、立川社協)が就労継続B型として運営されています。知的障害の方が準備や片づけ、接客などを行い、市役所に訪れるお客様に喫茶サービスを提供しています。この喫茶店は新庁舎ができる時、地域の知的障害者通所施設の集まり(立川市福祉施設交流連絡会、以下交流連絡会)からの要望によって生まれました。特定の方の固定的な通所先ではなく、多くの利用者に施設の外で働く体験や準備訓練の機会を提供できる仕組みを作ることが狙いでした。通所施設におられる方のなかには、一般の会社で働くことが難しく、経験の少ない方も多くおられます。この機会を通じて、そうした方々の成長や変化につなげたいという願いが込められています。さらには支援者自身が、普段の施設生活の中では気づかなかったご本人の可能性を発見したり、ご本人理解を一層深め、支援の充実を図りたいという思いもあるとのことでした。ようやく店舗運営が落ち着き、複数の施設から体験実習を受け入れる試みを始めることになりました。企業就労に直結しないかもしれませんが、こうした意図や複数の施設によるネットワークを活用した取り組みは、地域において非常に有意義なものと捉え、当センターもお手伝いをさせて頂いています。

準備や実際の取り組みは、交流連絡会の有志6施設が準備会を設け、立川社協さんが事務局を務める形で進められています。実習生を紹介する施設と引き受ける施設の間の目的や支援内容の共有の仕方、体験実習のスムーズな流れ、実習後の振り返りや効果の検証など、さまざまな点について議論が重ねられました。就労支援を行う当センターとしても、参考になりそうな情報やノウハウについて積極的に提供させて頂きました。当然この取り組みには、立川市障害福祉課も協力し、自立支援協議会就労専門部会も応援しています。このように複数の施設や機関が協力して取り組むことで、地域全体の連携やネットワークが大きくなり、かつ深まります。この取り組みが、一層充実していけるよう引き続きご協力させて頂きたいと考えています。

加えて、市役所庁舎では、当センターが市役所実習を就労支援の一環で行っています。これまでこの喫茶店で経験を重ねてきた方々を、体験的に市役所実習に参加して頂きました。ご本人たちは益々就労意欲を高め、当センターに正式に利用登録され、良い企業と出会い実際に就職を果たした方も出ました。養護学校(現在の特別支援学校)卒業後、ずっと作業所に通われていた方ですが、「c a f éはあ

もにい♪」や市役所実習などを経験し、少しずつステップを踏み就職するに至ったことは、非常に嬉しく思います。今回、通所施設・就労支援センター・立川市が連携することで、ご本人の変化や成長を促し、新しい一歩を踏み出すことができました。こうしたネットワークの取り組みが、非常に重要であることが実感された出来事でした。ご本人への支援において、それぞれの支援機関が互いに強みを持ちより、弱いところをカバーすることで、相乗効果を生むことが大いに期待できそうです。これからも地域のつながりを大切にしつつ、支援に励みたいと思います。(井上 貴央)



caféはあもにい♪の風景

◆ 職場紹介 PART 17 - 株式会社リクルートスタッフィングクラブツ -

今回の訪問先は株式会社リクルートスタッフィングクラブツ狭山事業所です。株式会社リクルートスタッフィングの特例子会社で、2008年4月に設立されました。主に手漉き紙による販促物(カレンダー、あぶらとり紙、メモパッド等)の製造をしています。現在、埼玉県に4拠点、千葉県に2拠点を展開されており、その一つ、2012年10月に立ち上がった狭山事業所では、42名の重度知的障害の方が働いています。

昨年2月、新規採用のための会社説明・見学会があり、「重度知的障害の方が働く職場」を見てみたいと、当センターに登録したばかりの斉藤隆司さんといっしょに参加しました。当時、斉藤さんは養護学校卒業後19年働いた会社を辞め、市内の福祉施設に通所しながら再就職の準備を始めたところでした。見学では、重度知的障害の方が働きやすいよう構造化された職場環境や業務内容、皆さんが黙々と働いている職場の雰囲気は驚きました。斉藤さんが紙漉きをやりたいと希望し、チャレンジすることを決めました。そして、5月の面接をへて、6月から1日6時間(9-16時)、週5日勤務しています。

電車に乗るのが好きな斉藤さんにとって立川から狭山まで乗り換えて通勤することは簡単でした。しかし、コミュニケーションが苦手な携帯電話を使ったことがなかったため、電車が遅れた時などに会社への連絡をどうするかが入社前の一番の課題でした。通勤時間帯に、電車が遅れていることを想定して、駅のホームから携帯電話をかける練習を何度も行いました。

入社当初、斉藤さんは主に紙漉き作業を行っていましたが、人のペースに合わせる流れ作業に向かないということで、現在は主に一人でできる検品作業を担当しています。具体的には、完成した紙を板からはがし、板をきれいに拭く、紙の重さを量って重さごとに分けるなどの作業で、サポーターと呼ばれる職員の方の指導や指示に従って行います。

会社は一人ひとりについて、細かく観察・評価されています。斉藤さんについては素直に指示がきけ、一定のスピードで正確にできる作業もある点が評価されている一方、だんだん乗ってきて商品を雑に扱ったり、周囲の音や動きに反応してイライラすることがあると指摘されています。サポーターの方が注意し、一呼吸おくことで落ち着けますが、対策を検討しているところです。会社としては障害特性を理解した上で、長い時間をかけて成長を促していきたいというスタンスをお持ちです。この先いろいろな作業にチャレンジしていくためには、少しずつ他の人と協力していくことにも慣れ、周囲の環境に左右されない力をつけていってほしいと言われています。

会社が支援機関に求めることは、本人へのアプローチや指導に関するアドバイス、生活面の情報提供と支援、ご家庭との橋渡しです。会社の方針が明確であるため、支援機関としてはとても連携しやすいと感じます。定期的に会社と支援機関が情報交換を行うケース会議も開かれています。会議に参加する際に作業の様子も見学しますが、全員が黙々と作業に取り組み、職場として統率のとれた様子を見ると、重度知的障害の方であっても適切なサポートがあれば働けるのだと実感します。

そんな会社で同じ障害のある仲間といっしょに斉藤さんが楽しく働き続け、成長できるよう、これからもしっかりと支援していきたいと思っています。(白部貴子)



紙の重さを量り、仕分ける

ちいきせいかつしえん
地域生活支援センター・パティオ

パティオのプログラムは利用する方が、担当職員と相談しながら自分の体調や目的にあったものに参加できるよう支援させて頂いており、プログラムごとに特色があります。今号では現在行われている内容についてお伝えしたいと思います。

① レディースDay 日時：第2・4火曜日 14:00～16:00 (女性限定)

人とのつながりを持ちたいと考えている女性同士が、生き方や日頃の過ごし方について共着しあう場になっており、話すことがメインの内容です。今年度はスイーツやお鍋など食べる機会が多くありました。

② ヨガ教室 日時：第1・3火曜日 14:00～16:00

生活リズム作りをしたい方、目ごろ運動不足を実感している方、外出するきっかけが欲しい方が対象です。1時間ごとの2部制で、自宅のできるヨガやセルフマッサージをヨガの講師の指導で行います。

③ 出るDay 日時：第1・3・5水曜日 14:00～16:00

外に出るきっかけ作りに参加頂きたいプログラムです。必要な方には送迎も行っています。来所される時間や帰る時間、休憩はいつでもかまいません。自分のペースで、創作やゲームを通して人と過ごす時間を楽します。

④ 月1食ベナイト 日時：第3木曜日 16:00～18:00

家庭的な雰囲気の中で専門のスタッフが作った食事(食事代:350円)をとりながら、交流や仲間づくりができるプログラムになっています。

⑤ 自立生活プログラム (ILP) 日時：第2・4金曜日 14:00～16:00

パティオのILPでは遊びや通所資源の見学に外出、薬やお金などの勉強会の開催と2ヶ月1クールとしてテーマにそった活動をしています。障害のある仲間、薬をのんでいる仲間同士の時間として情報交換や気持ち、思いの共有を大切に行っています。

年初めは毎年、みんなで初詣に出掛けます。今年は高幡不動へ。モノレールにもみんなで乗れば、大丈夫！外出が苦手な方も仲間やスタッフとサポートを受けながら、外出企画にも参加してくれるようになっていきます。



⑥ マナブとケイコ (講座) 日時：第1・3・5土曜日 14:00～16:00

技術力アップや体力づくり、覚えたいこと、習いたいことの期待に応え、パソコン教室、書道教室、ダイエット講座、などのいろいろなプログラムを2ヶ月1クール、ご提供しています。

⑦ お茶の子ハイサイ (午前中開催)

日時：毎週金曜日 10:00～13:00

「働きたい」「通う場所を探している」と考えている方が対象となります。通信紙に関する作業と調理実習を中心に行い、1回毎に自己評価し、1クール(3ヶ月)の終わりに今後を検討しています。終了後は通所資源を利用する、復職など就労へのステップを踏む方が多くなっています。

⑧ オープンスペース 日時：プログラムが行われていない火曜日～土曜日 14:00～18:00

スタッフは常駐しませんが、登録者が自分のペースで仲間づくり、情報交換、休憩などでつかえる憩いの場所でオープンスペースを利用することができます。

*今後とも利用されている方のニーズにあったプログラムを提供していきたいと思っています。

(遠藤雅子)

知的事業では、知的障害当事者の内山さん・泉口さんにご協力いただき、プログラムの実施や情報発信を行っています。

■日本障害者リハビリテーション協会 研修への協力【10月25日（金）】

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会から依頼を受け「障害者リーダーシップ育成とネットワーク」のカリキュラムの一環として、当団体の知的事業の活動をご紹介します。

この研修は、障害当事者自身が「差別」や「権利」に対する理解を深め、権利意識を持つ障害者リーダーの育成を目指すためにJICA（独立行政法人 国際協力機構）の委託で開催されており、今回はマレーシアやスーダン、フィリピンなど7カ国から7名の障害当事者が訪れました。

午前中は、当団体の協力員である身体障害のある仲間とともに過ごし、自己紹介や泉口さんが考えたゲーム（動物の鳴き声をまねして何の種類かを当てる、言語の壁なく楽しめるもの）を行いました。

会食後、午後からは知的事業の概要や、内山さん・泉口さんの生活や仕事、利用しているサービスについてパワーポイントや写真・動画なども活用して、参加者の方々に活動を伝えていきました。

質問も数多く寄せられ、国や障害が違っていても、自分たちの住む地域をよりよいものにしていきたいという気持ちは同じであるということ、受講生の皆さんの熱意から実感することができました。

内山さんの感想

外国の仲間が来てくれてとても嬉しかった。

自分の国のアクセサリーについてなどおしゃれの話もできた。

泉口さんの感想

JICAの研修生に向けて、知的事業でやっている活動の話をしたり、自分の生活のことについて話ができよかった。

自分たちの話したことが、研修に参加した障害者リーダーの方々の役に立ったかどうか分からないけれど、今回の研修で自分たちのやっている事業のことが伝えられてとてもよかった。



知的事業についてお話ししました



みんなで記念撮影

■うちい散歩

かぞく市～多摩の健康・介護・医療展～ 取材【12月6日】

昭和記念公園みどりの文化ゾーンで開催された、多摩信用金庫主催のかぞく市を取材しました。かぞく市とは、家族の暮らしやすさを探すため、生活サポート情報や便利グッズなどを触って使ってみるイベントで、今年初めて開催されました。（出展者：68事業所 来場者：1,850名）

立川市障害者週間、日本聴導犬協会、有限会社デジレクト（人を癒すロボット）、首都大学東京山口研究室（生活に役立つロボット）の4つのブースに訪問し、取材記事を作成しました。

記事は、市内にお住まいの知的障害のある方や団体などに配布し、情報提供を行う予定です。

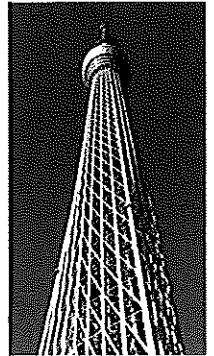
じりつせいかつぶ じぎょうほうこく
自立生活部 事業報告

■ ツーリスト企画「リフトカーを使ってスカイツリーに行こう！」を開催しました。(11月13日)

この企画は、遠くへの外出が難しい障害状況の仲間に向け、工夫や準備をすれば、仲間と楽しく出かけることができることを体験してもらうプログラムとして、すでに精力的にC I L立川の活動に協力していただいている障害当事者、協力員とともに企画を進め、ヘルプ協会たちかわ移送事業部のご協力をいただいたものです。

季節外れの台風の影響で1ヶ月延期の開催となりましたが、当日は晴天にも恵まれ、絶好の行楽日和となりました。

東京スカイツリーまでの道中では、公共交通機関を利用した外出に心配がある方を想定し、3台のリフトカーを活用。ご自宅までの送迎、必要に応じてお手洗いに立ち寄るなど安心して外出できる工夫をこらしたツアーとなりました。



りと天空からのパノラマを眺めることができました。

たいへん好評だったこともあり、また来年度も楽しんでもらえるツーリスト企画を立てたいと思います。

(大石 幸治)

東京スカイツリーのショッピングモール「ソラマチ」にて昼食をとり、いざスカイツリーへ！エレベーターで地上300m、450mの展望フロアに登り、広がる絶景に歓声が沸きました。ちなみに、多目的トイレは「ソラマチ」だけではなく、各展望フロアにも設置されており、安心してゆっくり



■ 子どもI Lプログラム「いっぱい遊ぼう♪」を開催しました。(11月17日)

毎年恒例となってきた子ども向けI Lプログラム。今回は障害のある子どもたちが中心となり、大学生や社会人になった先輩方をお招きし、食事会をしながら話を聞こう！というプログラムを行いました。

今回もヘルプ協会たちかわ移送事業部にご協力をいただき3台のリフトカーで子ども達の送迎をしました。子ども達が集合したところで、先輩方をおもてなしするため、買い物やピザ注文、企画係りなど役割分担をして食事会の準備をしました。ピザや飲み物、お菓子を用意し終えたところで松島さん・小関さん・渡辺さん3名の先輩方が到着。子ども達の司会進行で食事会が始まり、3テーブルに分かれ歓談を楽しみました。



食事会後、先輩方からご自身の幼少期から現在に至るまでを語っていただき、子どもたちからも人間関係について質問が寄せられました。先輩方も同じ経験をしており、色々な事を感じながら乗り越えてきたことを子ども達に伝えてくれました。障害のある仲間や先輩と話をすること、子ども達が感じている思いを出しやすい場を作ることが大切だと感じました。

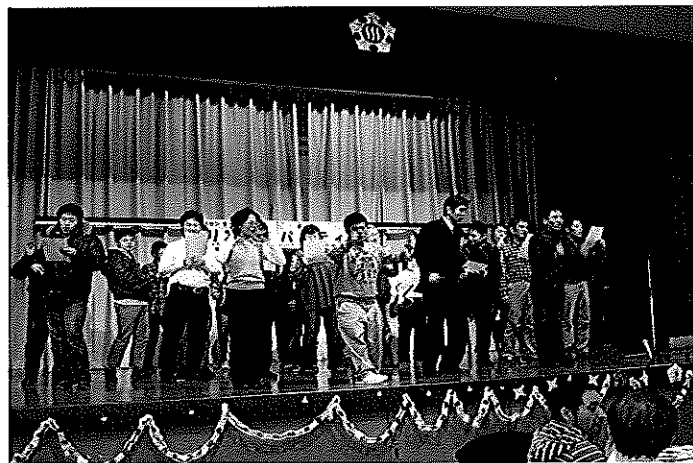
(鶴園 誠)

■ 2013年度 クリスマス会を開催しました。(12月19日)

今年も自立生活センター・笠川全体（H・L・就労・パティオ）の利用者を対象にしたクリスマス会を築崎学習館（講堂）で開催しました。

協力員の太田さん司会のもと奥山理事長の挨拶で幕開けとなり、みんなで乾杯し歓談へうつりました。

築崎学習館が移転するため、クリスマス会をこの会場で行うのは最後となります。少しでも思い出に残るようにと担当者も準備に力を入れました。食事は「カフェ トークスペース」にご協力いただき、お弁当とオードブルといったボリュームのあるメニュー、加えてクリスマス会初の暖かいスープを提供いただきました。参加された方々もその味とメニュー、ボリュームに大変満足された様子でした。



また以前もご協力いただいた「ヒルフラット 吹奏楽団」の皆さんにお越しいただき、アンパンマンマーチ・あまちゃんのテーマ・ホワイトクリスマス・川の流れるようになどクリスマスソングや流行曲を40分にわたり演奏していただきました。

エンタメコーナーでは5組の個性ある出場者が舞台上に上がりました。ソロで歌声を披露したH・L利用者、お笑いネタを発表したパティオアイエルチーム、職員も混ざって就労部門全員でレ

ッツダンシングと様々な出しもので会場を盛り上げてくれました。

そして、最後の恒例となっている表彰式では「自立していたでSHOW」「歌がうまかったでSHOW」「エレガントでSHOW」など8名の方が表彰され、景品を授与されました。表彰された方々からは自分の名前が呼ばれるとビックリ顔、恥ずかし顔、うれし顔と色々な表情が見られ、喜んでもらえた様子でした。締めくくりには、参加者全員で記念撮影を行いました。

今回の参加者は75名とたくさんの方々にいらしていただきました。また、みなさんと一緒に楽しく過ごせるイベントを開催しますのでその時は是非、参加してください。

(つるぎの まこと 誠)



私たちの動き (10/1~1/31)

() は担当部門名 CIL・HL・就労・パティオ

【イベント・行事の実施】

(CIL)

- ・ 出前講座(上砂川小, 西砂小, 幸小,
6小, 10小, けやき台小)
- ・ ランチタイム(10/9, 10/25, 1/7)
- ・ 内部研修(11/8, 1/31)
- ・ 協力員ツーリスト
「リフトカーを使ってスカイツリーに行こう」(11/13)
- ・ 子どもILP「いっぱい遊ぼう♪」(11/17)
- ・ クリスマス会(12/19)
- ・ 防災ILP(1/17)
- ・ 知的プログラム「お金の使い方を学ぼう」(1/18)

(HL)

- ・ 平成25年度立川市障害者週間(12/3-9)
- ・ 計画相談セミナー(1/21)

(パティオ)

- ・ 年越しそば会(12/30)
- ・ お雑煮会(1/2)
- ・ パティオ活動報告会(1/27)

【連絡会・委員会・連携業務】

(CIL)

- ・ 第4次立川市総合計画(10/2, 1/11)
- ・ 立川市指定特定相談支援事業所連絡会
(10/8, 12/3, 1/30)
- ・ 多摩療護園オンブズパーソン
(10/9, 10/31, 11/21, 12/24)
- ・ 立川市自立支援協議会全体会(11/5)
- ・ 障害のある人もない人も暮らしやすい立川市を考える会
地区別懇談会(10/15, 11/25, 26)
- ・ 立川市障害者施策推進委員会(10/22)
- ・ 障害のある人もない人も暮らしやすい立川市を考える会
(10/23, 1/30)
- ・ あいあいプラン21策定委員会(10/25, 12/11)
- ・ 立川市サービス等利用計画・
障害児支援利用計画説明会(11/11)
- ・ 立川市災害ボランティアネットワーク
(11/18, 12/13, 1/23)
- ・ 障害者虐待防止及び計画相談支援に関する
事業者向け説明会(11/29)
- ・ 地域生活移行支援会議(12/9)
- ・ 産業委員会(12/10)
- ・ 東京交通実行委員会・民営バス協会との話し合い
(12/17)
- ・ 地域福祉計画策定検討委員会(12/18)
- ・ 立川市人権学習事業実行委員会(1/21)

(HL)

- ・ 立川市障害者週間実行委員会(10/24, 11/18, 1/22)
- ・ 立川市権利擁護・相談支援専門部会(10/30, 1/23)
- ・ 立川市自立支援協議会全体会(11/5)

(就労)

- ・ 立川市自立支援協議会全体会(11/5)

- ・ 多摩就労支援事業委託団体連絡会(10/18, 12/20)
- ・ 知的通所交流連絡会(11/21, 26, 12/13)
- ・ 立川市自立支援協議会就労専門部会(1/27)

(パティオ)

- ・ 支援センター多摩立川保健所圏域会議(10/11)
- ・ 立川市精神保健業務連絡会(10/15, 11/19, 12/17, 1/21)
- ・ りらく定例会(10/17, 12/19, 1/16)
- ・ 立川市地域活動支援センター連絡協議会(10/18, 1/17)
- ・ 障害者週間実行委員会(10/24, 1/22)
- ・ グループホーム連絡協議会(10/24)
- ・ たちせいれん(10/25, 1/24)
- ・ 立川市退院支援会議(11/14, 1/9)
- ・ りらく交流会(11/21)

【外部への見学・研修・イベント】

(CIL)

- ・ 東京都相談支援従事者現任研修(10/1, 2)
- ・ 障害者相談支援事業職員研修会(10/3, 4)
- ・ JIL関東ブロック研修(10/10)
- ・ ILPリーダーズ(10/30)
- ・ 大フォーラム(10/31)
- ・ 手をつなぐ親の会記念式典(11/7)
- ・ 親の会主催 福祉事業所懇談会(12/5)
- ・ 人権学習事業実行委員会映画上映(12/8)
- ・ TIL総会(12/10)
- ・ 立川市議会傍聴(12/20)
- ・ 立川市相談支援専門員研修会(1/17)

(就労)

- ・ 日本郵便東京支立川ありがとうセンター
オープニングセレモニー(10/1)
- ・ 親の会主催 福祉事業所懇談会(12/5)
- ・ 八王子ふらん研修(12/24)
- ・ 親の会主催 学習会(1/25)

【外部からの見学・研修・イベント】

(CIL)

- ・ JICA(10/25)

(パティオ)

- ・ 実習生 昭和の森看護学校 6名

【講師派遣】

(CIL)

- ・ 障害者相談支援事業職員研修会(10/3, 4)
- ・ JICA研修(10/23)
- ・ 池袋防災館職員向け接遇研修(11/20)
- ・ 東京都自立支援協議会セミナー(11/22)
- ・ 東京都相談支援従事者初任者研修(1/10, 27, 28, 30, 31)

(就労)

- ・ 立川市特別支援学級小中合同保護者会講演(10/3)

★ ご寄付等、ありがとうございました ★

- ・ 川口 哲平様 ・ 野上 温子様 ・ 鈴木 正子様
- ・ 黨 正 様 ・ 匿名1名 (順不同)

特定非営利活動法人 自立生活センター・立川
〒190-0023 東京都立川市柴崎町2-10-16 材ビル2F
TEL: 042-525-0879 FAX: 042-521-3134
URL: <http://www.sh.rim.or.jp/~cilt>
Mail: cilt@sh.rim.or.jp